

「薩南水車からくり製作の取組」

1 学校名 鹿児島県立薩南工業高等学校

2 学年・人数 建築科3年10名

3 日時・場所

(1) 製作の日時・場所

平成28年4月13日(水)～平成29年1月25日(水) 建築科木工実習室

(2) 発表の日時・場所

平成29年1月19日(木) 建築科製図室(校内の課題研究発表会)

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

ちらん すいしゃ
知覧の水車からくり

(2) 由来

豊玉姫神社の水車からくりは、水車を動力源にして人形を動かし、一場の芝居を演じさせるからくり人形である。明治維新以前から存在し、一時戦争等で途絶えたが、昭和54年町民の想いで再び回るようになった。今では知覧の代表的な行事として、しっかり根付き、国や県の文化財として指定を受けている。こうした素晴らしい伝統文化や技術が後世にしっかりと受け継がれていくことを願ってやみません。

(3) 構成等

水車と人形それを連結するからくり機構で成り立っている。本校では、平成27年度本校敷地内を流れている水路に木製水車を製作設置し、本年度は芝居を演じる舞台となるからくり館を建設し、連結させ「薩南水車からくり」を完成させたい。なお、水車・からくり人形・館の製作に当たっては、知覧水車からくり保存会をはじめ地域の方々のご協力を頂き進めている。

5 保存会や地域との連携の具体

昨年度は、地域活性化のため南九州市をはじめ保存会・大学・地元小中学校の代表で委員会を組織し、多くの方々の意見を集約しながら進めた。

主な連携先としては、知覧水車からくり保存会員の指導による人形製作(2ヶ年間で6日間)、大工や左官さんの指導(延べ3日間)を頂き館の建設、小学生と共に水車模型の製作と様々な形で連携を図ってきている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

薩摩半島は職人の宝庫であると言われ、「知覧大工」という一言に代表されるように、知覧の大工集団の技術は卓越しており、「知覧型二ツ家」など、独特の建築技術が発展した。したがってこの地域の人々は昔から手先が器用であるとされ「知覧傘提灯」などにその片鱗

をうかがい知ることができる。明治期になってからもこうした風潮は衰えず、現在の本校の前身である工業徒弟学校が明治40年に設立されている。文字どおり知覧大工の優秀な手わざを継承し、ここに知覧の人々の伝統を重んじる心情を伺うことができる。

上記のことを具体的に継続していくために、ものづくりマイスターを年数回来校して頂き大工技術や技能の向上を図ってきている。また、知覧水車からくり保存会との連携、毎年豊玉姫神社で行われている「水車からくり」のお手伝い（衣装の製作・からくり機構部屋の清掃や見学・保存会との交流）、からくり人形や機構製作ご指導を頂いている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



からくり人形製作



からくり人形・機構製作



からくり人形披露（文化祭）



大工技術・技能を学ぶ



からくり館建設



木製水車製作



水車製作



水車稼働



ものづくりマイスターから指導を受ける

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

平成27年度 生徒2点

水車からくり

薩南工業高等学校 建築科3年 五反田 海都

長い歴史と伝統のある薩南工業高等学校で、僕らの代に始まったのが建築科の課題研究「薩南水車からくり班」だ。最初は面白そうに思えたが、実際に取り組んでみると、少し面倒くさくなっていき、消極的な気持ちにもなった。そのうち授業だけでは時間が足りず、「水車からくり同好会」も組織され、課外活動もしていくことになった。班長の私が同好会の会長も兼ねることになり、恥ずかしい気持ちもあったが、決まったからには頑張ろうと決意した。

学校のある南九州市知覧町は、歴史と文化、伝統芸能が今も息づく所である。その中でも豊富な水源を活かした「水車」は、誇れるものだ。単なる製作に留まらず、歴史や運用のされ方など、さまざまな面から学ぶことにした。するとこの地域では、農業用から産業用まで多くの水車が動いていたことが分かった。自分が、地域の貴重な財産となる「水車」の製作にかかわれるのは、とても幸せなことなのだと思うようになった。

私は、大工の道に進むことにしている。その上で今回、木製水車作りに取り組めたことは、一生の財産となり自信につながった。ご協力を頂いた地域の皆さまへの感謝の気持ち大事に、残り少ない高校生活を充実したものにしたい。

「水車からくり」を終えて

薩南工業高等学校 建築科3年 窪園 杜

私は、建築科3年の課題研究で「水車からくり」を選びました。これは、国の無形民俗文化財に指定されている、知覧の豊玉姫神社の水車からくりを参考に、学校内に水車を作り、からくり人形を動かそうとする計画でした。特殊なものづくりである「水車」と、複雑な動きをする「からくり人形」を製作する機会を得たことはとても有意義な経験となりました。

まずは、水車やからくり人形に関わることを勉強しました。豊玉姫神社のからくり館で、舞台下の機構部屋を清掃し、保存会の方々の作業風景や、複雑な仕組みを拝見しました。さらに、地球規模の自然環境について考える機会や鹿屋工業高校の水車への取り組みやロボット製作等についての交流会もできました。

学校の木工室で取りかかった大型の水車作りには、建築科で身に付けた木工や測定の技術が活きました。慣れないものを作っていく苦労も多くありましたが、それ以上に、構造の複雑な水車を、

チームで作り上げる喜びが優りました。また、知覧小学校の子どもたちと一緒に「水車模型ものづくり」に挑戦した時には、教える立場の難しさを感じ、自分たちが技能を受け伝えていくことの大切さも学びました。

もうしばらくすると卒業ですが、この班で学んだことは一生忘れないと思います。貴重な経験を積ませていただき本当にありがとうございました。

平成28年度 生徒2点

薩南水車からくり活動

薩南工業高等学校 情報技術科3年 佐多武志

「水車からくり同好会に入部したい人はいませんか。」と言われた時に私は直ぐに入部したいと思いました。工業高校に入学し、ものづくりを通して地域の伝統や歴史に興味を持つようになりました。さらに地域の伝統や歴史にふれるような活動がしたいと考えたからです。水車からくりは水車を動力として演じる人形劇であり、地元の夏の風物詩となっています。

私自身も小さい頃からよく見に行きました。私は入部することを決め、水車からくり同好会の活動に参加しました。活動は地元の水からくり保存会から先生を招き、からくり人形の機構を中心に学ぶというものでした。先生の真似をするように作業をしていこうと思っていました。しかし、先生の道具の扱い方は熟練の技が多く一見雑に扱っているように見えたところも後から確認してみると全てとても繊細でしかも角度や長さも完ぺきでした。この一つ一つの技も地元で受け継がれてきた伝統であり、長い歴史の中で変わらず現在まで続いていると知り伝統の素晴らしさを改めて感じることができました。

私は高校卒業後は県外に出て行きますが、水車からくり同好会活動で感じた多くのことが故郷での学びだとして一生忘れないと思います。

からくり人形の製作

薩南工業高等学校 情報技術科3年 茶園海斗

水車からくり同好会は私が高校二年生の時に創部されました。私が入部しようと思ったきっかけは、先生方から知覧にある豊玉姫神社の水車カラクリを見学してみないかと誘われたところからです。誘われ実際に足を運び、水車からくりを見てこれほどのような構造・原理で動いているのかととても興味をもちました。

入部した当初は、小刀やトンカチ、インパクトドライバーなどの工具をあまり使ったことがなくとても苦戦しました。

しかし日々製作で使用していく中で扱い慣れ、作品を作る楽しさが感じとれるようになりました。夏休みには知覧水カラクリ保存会から3名のプロの方々に学校に来て頂き、からくり人形の技術・技能を教えてくださいました。そして色々な事を学びながら自分の人形を完成させることができました。完成できた時はとても感動しました。

水車からくり同好会の活動は、地元の伝統文化を守り、地域貢献できている素晴らしいものだと思います。私はあと少しで卒業しますので、その短い期間をできるだけ利用し、同好会の活動を頑張っていきたいと思います。

そして今まで学んだ貴重な経験を後輩達に教え、活動を代々引き継いでいきたいと思っています。水車からくり同好会の活動は卒業してもずっと続けていってほしいです。